優秀賞　〈低学年の部〉

ピッカピカがえし

和歌山県　智辯学園和歌山小学校 二年
延與 晟一良

ぼくは、まだ一どもお母さんのおべん当をのこしたことがありません。毎日、ピッカピカに食べます。お母さんは、

「いつもおべん当、ピカピカに食べてくれてありがとうね。」

と言ってくれます。ぼくも、本当は、

「いつもおべん当作ってくれてありがとう。」

と言いたいけど、てれくさいので言えません。

ぼくは、お母さんのおべん当はぜったいにのこさない、ときめています。ぼくがきめたルールです。お母さんは、毎朝5時半におきて、ぼくとお父さんと弟のおべん当を作るので、のこしたらわるいと思うし、おべん当をピッカピカでかえすのは、ぼくのお母さんへの「ありがとう。」の気持ちだからです。

一年生の時、ぼくは食べるのがおそくて、ごち走様の時間に間に合わない時がありました。お母さんは、おべん当に、ぼくのこうぶつをいっぱい入れてくれました。こうぶつがいっぱいだと、早く食べれるからです。ぼくは、だんだん早く食べれるようになって、十分でかん食できるようになりました。

でも、二年生になった時、ぼくのおべん当に、とつぜん、ぼくのにが手な野さいが入ってきました。でも、ぼくは、おべん当はぜったいにのこさないときめているので、がんばって食べます。

「今日、おべん当にオクラが入ってたけど。」

と言うと、お母さんは、とぼけて、

「そお?でも、今日もピッカピカに食べてくれてるやん。すごいやん！」

と言いました。

ぼくは、気づきました。お母さんは、わざとぼくのおべん当に、ぼくのにが手な野さいを入れています。きっと、ぼくのピッカピカがえしの気持ちに気づいていて、ぼくがおべん当をぜったいにのこさないと分かっているからです。一年生の時、おべん当を早く食べれるようになったので、今どは、にが手な野さいを食べれるようになってほしい、とお母さんは思っています。にが手な野さいが入っている時、ぼくはお母さんの気持ちを思い出します。ぼくは、お母さんの気持ちに気づいているから、これからも、お母さんのおべん当はぜったいにのこさないし、毎日ピッカピカでかえします。

ぼくのピッカピカがえしは、「お母さん、いつもありがとう。」の気持ちです。